

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0391500055		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム もたい		
所在地	奥州市前沢区生母字中道3番地2 (電 話) 0197-56-0320		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月6日

【情報提供票より】(20年 8月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	10月	20日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10 人	常勤	8人, 非常勤	2人, 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下川辺医院 中田町歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

奥州市前沢区に流れる北上川の東側に位置している。静かな田園地帯の中に広い敷地を有しており、関連のデイサービス事業所「もたい」と隣接して立地しており、相互に協力し合いながら利用者のサービスに努めている。開設1年目であり、建物が新しく、明るく、広く、清潔である。併設のデイサービスには、温泉に入浴できる設備がある。職員がまとまって、利用者一人ひとりの思いを大切にしながら、利用者へ寄り添ったサービスを提供するように、ホームを作り上げて行こうと努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年10月20日開設のため、今回が初の外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で意見をまとめながら、自己評価を行っている。評価の内容と意義を理解しており、評価することの大切さを知っている。評価結果は利用者のサービス提供や事業所の運営に役立て、活用を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、その時々テーマを取上げて2ヵ月毎に開催し、委員からの質疑や意見を利用者のサービス提供や事業所の運営に活かしている。また、グループホーム職員会議を、全職員出席によって毎月1回実施している。ここで運営推進会議で討議された内容を報告し、職員がサービスに資する問題点を共有する中で、取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族アンケート、投書箱、家族の訪問時などに意見、苦情等聞き、会議や申し送りの場であって共有しながら運営に反映するとともに、更に家族が話しやすい場が提供できるよう努めたいとしている。家族へは「家族連絡票」によって利用者の状況報告を行っている他に、広報を発行し、活動状況を知らせている。また、家族の意見等を聴取するためアンケート調査を行なっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所行事に地域住民の協力を得ている他、幼稚園、地元婦人部等の歌や踊りなどのボランティアを受け入れる中での交流を進められているが、地域の一員として、自治会や老人会の加入、地域行事への参加等、積極的に地域活動への参加や連携を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域で」を念頭に理念を作り上げており、利用者一人ひとりの思いを大切に支援に努めているが、示されている理念の文中には「地域」という文言は入っていない。	○	「住み慣れた地域で」を念頭においていることは大切なことであるので、地域密着型サービス事業所の理念を示す文章、文言の中に明確なかたちで示されることを期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室、食堂、玄関に掲示しており、月1回の職員会議と毎日の申し送り時に確認し合いながら共有できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の方々から餅つきでお世話をいただいたり、婦人部の踊り、子供みこし、幼稚園児の施設訪問など、デイサービスとも合同して取り組み、実施している。	○	現在実施している交流を更に進めるとともに、グループホームは地域の中での「家庭」と同様に地域住民に認められていること、地域の諸行事への参加、地域消防からの協力など、積極的に地域とのつきあいに努めることに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価への取り組みは、職員の意見をまとめる方法で行った。職員は自己評価に取り組むことによって評価の意義を理解するとともに、その活用に取り組もうとしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、知識経験者、地域住民、家族、事業所職員を委員として2ヵ月毎に運営推進会議を開催しており、会議で話し合われた内容は、職員会議で報告し、利用者の支援に取り入れるべき意見を職員間で共有してサービスの提供に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の運営に市からの情報提供を得ており、担当者との連携がよくとれている。退職によってケアマネジャーが不在となった際、施設長が市担当と善後策について相談、指導を受ける等の具体例もある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への報告は電話、来所の折に時間をとって行っており、報告の内容と報告者の記録をとっている。また、広報を年4回配布して、事業所の活動状況を知らせている。金銭管理については、個々の出納帳により月に一度、家族に確認してもらっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の担当職員を定め、家族が話し易いように取り組んでいる。家族の意見はアンケートや面会時、投書箱等で求める工夫をしているが、なかなか意見が出てこないのが実状である。もっと家族との交流の中で、その本音が出していただけるように工夫していきたい。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日頃から、デイサービスの職員と交流や兼務などによって馴染みの関係を作っており、職員の離職等があった場合も利用者にはダメージを与えないよう努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への参加は、出張及び個人の休暇時などの私的なもの、いずれも機会は確保できている。外部でなされた研修については、職員会議での報告や勉強会等の内部研修を行なう他、資料の回覧などで互いの資質の向上に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の奥州市ブロックや県南ブロック等を通して地域の同業者とのネットワークづくりに努め、交流の機会を設けるよう取り組んでおり、資質向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の事前見学や家族、本人との面接等を行い、デイサービスを利用しながら事前にグループホームを訪れている。その雰囲気や職員に馴染んだ上、利用するようになったケースが二例ある。また、昨年の開所時には、利用者と家族の内覧会をもって入所相談をし納得の上で利用していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬するとともに、日常生活の中でいろいろと教えられることが多い。年中行事や季節の食べ物、キノコの見分け方と調理方法、食後の片付け、洗濯物の整理等々、利用者と職員は支えあいながら毎日を過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活でのかかわりの中で、会話や表情、動作などから一人ひとりの意向や希望を把握するように努めており、本人本位の暮らしになるよう支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者、家族の意見を踏まえ、毎月の職員会議等で支援のあり方について検討しながら、利用者の立場に立って作成されたものである。6月末にケアマネジャーが退職したため、現在、計画作成担当者が不在の状況にある。	○	現在の計画は退職したケアマネージャが作成したものを基にして市の指導を受けて作成しているが、可能な限り速やかに計画作成担当者が充足できることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のグループホーム職員会議で、家族との連絡票、面談票、ケース記録を参考に、利用者一人ひとりの情報を確認し合いながら、利用者や家族の意向も踏まえ必要に応じて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスの利用者が帰宅したが、家人が不在だった場合、グループホームでの一時引き受け、デイサービスが始まる前の早朝、終了後の夜間に家庭の要望によりグループホームで受け入れている。また、グループホーム利用者がデイサービスの浴槽で入浴をするなど協力し合っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での診療を基本としており、利用者と家族の希望する病院をかかりつけ医としている。受診は家族が対応することとしている。グループホームでの利用者の健康状況については、ケース記録、日誌記録等によりかかりつけ医に情報提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期におけるグループホームとしての対応について、職員間で検討を行っている。グループホーム内部の体制を確立してから具体化に向けて行こうと現在検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活を共にする中で、利用者一人ひとりの誇りを認め、それを損ねない対応の徹底に努めている。そのため、第一に利用者を先輩として尊敬する気持ちを忘れないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の基本的な定めはあるが、全体のペースを優先せず、利用者個人のペースによって日々生活している。例えば、入浴を夜にとか、食事時間をずらしたい等、対応している。また、服装、理髪等も利用者の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者の希望を取り入れて職員が作成している。食事づくり、後片付けは利用者と職員が共に行っている。食事は利用者と職員が同じテーブルを囲み、職員はさりげなく支援する中で和やかに進めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は午後2時30分から午後5時30分頃まで、日曜日を除き週3回行っている。利用者毎に順番を決めているため、2日に一度になるが、希望によってはこの限りではない。気の合う利用者は一緒に入浴したり、デイサービスの大浴槽で温泉入浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の体験談を聞く会、歌、ボーリング、輪投げなど利用者の好みに応じて行なっているが、その時の希望によって柔軟な支援をする。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は利用者が満足するまで付き添い支援している。3日に1回の買い物には利用者も一緒に出かけている。利用者一人ひとりの希望にそって散歩やドライブに出かけ、外出中に喫茶、軽食を摂ることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜だけ玄関に施錠しているが、居室には鍵をかけていない。外出者には必ず職員が同行することにしており、鍵をかけないケアを大切にし、見守りや声がけで支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設しているデイサービスと共に7月に避難訓練を実施した。消防計画や職員用の「防災の手引き」を準備している。現在のところ地域消防など地域との協力関係は得ていない。今後取り組みたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は毎日のチェック表によって利用者一人ひとりの摂取量の確保を支援している。栄養摂取については、職員が作成した献立により食事を作っており、日誌で朝・昼・夜の食事状況のチェックでバランス良くなるよう支援している。	○	定期的に献立のサンプルを栄養士に指導をいただき、アドバイスを受けた献立や食材を参考にしながら栄養バランスが確保できる調理に取り組む工夫を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	水田に囲まれた静かな環境で敷地が広い。全体的に明るい雰囲気、ゆったりした空間になっている。全職員が日常生活の中で音、照明に配慮し、利用者が落ちつけるように取り組んでいる。共用の食堂等も広く、明るくゆったりした居心地の良い施設である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、使い慣れたものを持ち込み居心地良く過ごしている。利用者、家族には使い慣れたものを持ってきて良いことを伝えている。個々には、プライベートな物を持ちこんでいる利用者もあるが、まだ持ち込みの量は少ない。また、家族が来所した場合に宿泊できる部屋がある。		